

第17回地域連携手帳委員会議事録

日時 平成26年12月18日 (木) 13時30分～
会場 新津医療センター病院 大会議室

1 地域連携手帳の現状と問題点

- ・特になし

2 連携手帳の発展的利用

- ・むすびあい手帳
むすびあい手帳シート7が確定した。地域連携手帳様式と別枠で掲載。

3 第12回新津地域医療福祉連携協議会

- ・平成26年11月14日に開催
アンケートについては別添資料のとおり。
概ね、良好という意見だが、見たことがない・・などの意見もある。
グループワークについては、多職種での意見交換ができ良かったという意見
が多数あり、今後の協議会でも活かせるのではないか。

4 新潟薬科大学との連携における「まちなか活性化」の動き

- ・連携手帳を用いた「食と栄養の実態調査」
新津駅東口に応用生命学部のキャンバスができる。
まちなか活性化ということで、まちなか部会、健康部会ね里山部会の3つの
部会ができる。この中で、地域連携運営委員会として健康部会に参加。
食の重要性について、薬科大学学生のマンパワーを利用してデータをとること
になった。
連携手帳を利用したいということだが如何か。

意見

手帳の利用目的に反する。同意を得る必要がある。

結論

薬大の研究内容や計画などをこの会で説明してもらい了解を得た上で進める
こととする。

5 新潟市医師会在宅医療IT連携の状況

- ・済生会第二病院と斎藤クリニックが病院と診療所のIT拠点となり始めていく。
1月に現況報告がなされ、良好であれば物品搬入の上試験運用開始となる。
その後、新潟市予算のなかでどこまでやっていくか。
長期でみていくこととなる。

6 その他

- ・むすびあい手帳が市報で紹介され、ほしいという利用者が出てきている。
どのように対応したらいいか？

認知症関連などはむすびあい手帳様式を使用。基本的には秋葉区様式を使用するが、いずれは調整の上で統合していくことになる。

むすびあいの様式についても、ホームページに別添で載せている。

次回 2月19日（木）13時30分
会場 新津医療センター病院 会議室にて開催

以上

第17回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）

平成26年12月18日

1. 連携手帳の現状と問題点

2. 連携手帳の発展的利用

3. 第12回新津地域医療福祉連携協議会；平成26年11月14日（金）

テーマ：認知症と地域連携

地域連携手帳に関するアンケート

4. 新潟薬科大学との連携における「まちなか活性化」の動き

連携手帳を用いた「食と栄養の実態調査」の可能性

5. 新潟市医師会在宅医療IT連携の状況

6. その他

次回手帳委員会；平成27年2月19日（木）午後1時30分から
新津医療センター病院大会議室

第12回 新津地域医療福祉連携協議会 アンケートの集計

参加者147名／回答者124名

平成26年11月14日

整理番号	所属	職種	地域連携手帳について
19	1	1	医療現場でのより一層の利用を期待したい。
23	1	1	利用させていただいている。
43	1	1	毎日の診療の中で忙しくなかなか記述が出来ないことがあり中身も見れないことが多い。
61	1	1	在宅往診に行くだけで同じような書類を3枚位書くので、その上連携手帳となると往診はいいとも考える。
66	1	1	普及したい。
73	1	1	とてもよい。
75	1	1	全新潟市に広がり、すばらしいと思う。
117	1	1	なかなか見たことがない。
20	1	2	歯科のページがリニューアルされているのでアップして欲しい。
54	1	2	とてもよくできている。
22	1	3	地区毎に違うのでどうにかして欲しい。
56	1	3	活用あるのみ。
69	1	3	長谷川式スケール表やアルツハイマー、レビー、ピックなどのスコア表により定期的な病態変化の確認が出来れば薬剤選択の指標になると思う。
123	1	3	病院内においてはあまり活用できていないと思う。お薬手帳はチェックするが地域連携手帳は見ないで終わることが多い。
6	7	4	医療と介護の連携は一方通行の様な気がする。受診時に医師は全く診てくれないことが多い。
12	7	4	職種の違いで様々な経験、意見を聞くことが出来、よかったです。
26	3	4	それぞれの職種で適切の使用がしきれていない。自施設の用紙で日々の記録をしている部分があり、連携できないので困る。
34	4	4	本人、家族、サービス業者との繋がりを深めることでいいと思う。
36	1	4	ケアマネージャーが変更になったら書き換えをしてほしい。連携手帳を持参するようHPや入院パンフにも入れたい。
47	1	4	外来受診や入院時に情報を得ることができて有意義。
48	1	4	患者の情報を得る手段としてとてもよい。
64	1	4	各項目を開きやすいように見だしをつけたい。
99	1	4	病棟勤務で連携手帳を持って入院されるとありがたい。
106	1	4	病院でみたことがない。
33	4	5	受診時に本人や家族に持参するよう説明していこうと思う。
35	1	6	せっかく作った手帳が地域で運用、活用できるとよい。
7	7	7	利用サービス中の様子が書いてあるのでとても参考になる。
101	1	7	施設内での活用状況、役に立っている点など具体的に知りたい。
4	7	8	医療と福祉の連携はとても必要。手帳の利用により一般人も知っていくことが大事。
88	2	8	包括や居宅介護支援事業所が利用者にまず配布し、それを利用者が持参してサービス利用を開始するという流れがよい。
93	1	8	手帳が各施設で活発に使えるような仕組みを考えて欲しい。
116	1	8	家族で利用している。情報が書き込まれていて安心。
2	7	9	全ての長表データ(excel)が欲しい。
10	7	9	秋葉区で広がっていることがわかった。これをどのように活かし、繋げていくかを考えるべき。
13	5	9	医師にも書いて欲しい。書き方をもっと知りたい。
21	5	9	むすびあい手帳が開始するが、書式や運用方法を統一し、混乱がないよう普及できるとよい。
41	5	9	手帳を持つことが当たり前になってきている。
62	5	9	このまま継続してほしい。
92	5	9	受診時にもっと活用できるとよい。医師からも声掛けをお願いしたい。
17	2	10	地域でのケアが改めて大切だと思った。
44	3	10	誰がみてもわかりやすい手帳だと良い。
76	2	12	他サービスとの情報共有に役立っている。
85	3	12	高齢の方が記入するには書式全体が細かいように思う。大きな書式ならよい。
77	5	13	帳簿類が多すぎて連携手帳まで行き届かない。一体化したらもっと活用できる。
98	3	13	ヘルパーさん、訪りハさんからの情報交換がもっとあるとよい。
124	1	13	もっと活用事例を教えて欲しい。

番号	職種
1	医師
2	歯科医師
3	薬剤師
4	看護師
5	保健師
6	医療ソーシャルワーカー
7	医療技術職
8	事務職
9	介護支援専門員
10	介護福祉士(介護士)
11	社会福祉士
12	生活相談員
13	その他

新潟薬科大学との連携によるまちなか活性化検討会議 開催要項

■趣旨

新潟薬科大学新津駅東口キャンパス開設(平成28年4月予定)を契機として、まちなか活性化や健康づくりに資する事例研究、意識啓発、大学と連携した取り組みの方向性を検討する。

■時期

平成26年11月～平成27年2月 6回程度(全体会議2回/部会4回)

■進め方

部会(まちなか部会・健康部会・里山部会)を中心に、各々関係機関・団体等による意見交換及び方向性の確認(計画の策定等)。

*新潟薬科大学との連携によるまちづくりを「まちなか・健康・里山」の観点から、関係機関・団体等で(秋葉区として)共有し、新たな(既存も含め)連携事項の整理・整頓。

■構成

全体会議	構成=関係機関の代表・部会員等。内容=全体の方向性について報告、協議、確認
まちなか部会 9名	◆秋葉区の賑わい～まちなかの賑わいと交流、学生の実践教育 部会テーマ=新津駅東口キャンパス開設へ向けて、商店街や地域等との連携 【産 3名】 新津商工会議所、新津青年会議所、新津商店街協同組合連合会 【学 2名】 新潟薬科大学 【官 2名】 秋葉区(産業振興課) 【その他2名】 秋葉区自治協議会、新津中央コミュニティ協議会
健康部会 9名	◆秋葉区民の健康づくり～食育、薬育、健康・医療 部会テーマ=薬科大学の施策や取り組み(計画)に対する関係機関等の連携 【産 3名】 新津商工会議所、新津青年会議所、JA 新津さつき 【学 2名】 新潟薬科大学 【官 2名】 秋葉区(健康福祉課) 【その他2名】 秋葉区社会福祉協議会、新津地域医療福祉連携運営委員会
里山部会 8名	◆秋葉区の個性～里山の利活用 部会テーマ=秋葉区の宝である里山の利活用へ向けて、関係機関等との連携 【産 2名】 新津商工会議所、新津青年会議所 【学 2名】 新潟薬科大学 【官 2名】 秋葉区(産業振興課) 【その他2名】 NPO 法人にいがた森林の仲間の会、UX 新潟テレビ 21
事務局	秋葉区地域課 (TEL 0250-25-5701 e-mail:chiiki.a@city.niigata.lg.jp)

*部会によって、構成員(人数含む)の変更あり。

*部会の進行は秋葉区で行う。

新潟薬科大学との連携によるまちなか活性化検討会議

第1回健康部会議事録

日 時	平成 26 年 11 月 27 日 (木) 13:30~15:30
場 所	秋葉区役所 601・602 会議室
出席者 (敬称略)	山田道夫 (新津商工会議所) / 風間克寿 (JA 新津さつき) / 杉浦多公通 (新潟薬科大学) / 小林大高 (新潟薬科大学) / 豊島宗厚 (新津地域医療福祉連携運営委員会) / 丸山光子・水野佐智子 (秋葉区産業振興課)

【テーマ】薬科大学の施策や取り組み(計画)に対する関係機関等の連携

■健康についての思いや課題など

- ・薬科大学との連携で、プチベールを地域定着させてきた。消費者の評価もあり。また機能性の裏づけあり。今後も大事にしたい。栄養的に良いものは健康・体に良い。
- ・薬草園の活用
- ・地産地消の推進
 - 生産化⇒野菜を栽培し、食べることで健康になる。高齢者の生きがいなっている。
生産者として収益を得られると良い。
地元の身近な野菜を使って食を変えていくこと。以前からの食文化を見直す。
- ・医療の現場から
 - 後手後手の医療。食が関連している。
高齢者で病院に来る人の9割が栄養不足。栄養改善が必要な状況であり、病院で栄養管理しなくていい状況になれば、医療費も20%減らせるのではないか。
*H16年～栄養管理チームの取組みしていると紹介あり。
⇒食の大切さ・食をどうするか・・・意識すること、知ってもらうことが課題。
予防の視点が大切。
高齢者世帯・・・意欲の低下・食欲の低下などが予測できる。
高齢化の問題がより深刻になる。健康寿命を延ばすこと。
- ・食が大切、食育をいかにすすめていくかが課題。小さな頃から意識づけしていくことが課題。親世代への働きかけが課題。
- ・3町内の高齢者が朝、集まり体操をしていたが、体を動かすことは良い。地域に広げていくことは、地域のつながり、支え合いにつながる。防災の関わりにもなる。
- ・特定健診の受診や指導、データーの管理を生かし、未病をすすめること。
- ・学生自らが健診を受診し、若い年代のがん検診の受診率の向上が図られると良い。
また農家や商工の仕事をしている方々の健診受診の実情が把握できると良い。

■薬科大学の提案より

① 学生の意識

教育のフィールドを地域の中におき、地域と接点をもつ。*保健師等と連携

- ・学生が食の指導をする

- ・学生が高齢者の調査の実施。アドバイスの実施。

⇒世代間交流することで、互いの元気につながる。

② 啓発

機能性食品の開発・・・JAとの連携しプロジェクトを組む。

チベールの次のものを開発し、大学や病院で検証する。

③ 大学で推奨できるメニューづくり

④ 朝の体操の実施・・・学生が一緒にやれるとよい。

⇒体操することで、食欲につながる。

◎共通の思い・・・食が大切で、それが健康につながること。

<今後の展望>

薬科大学を発信基地として食(食育)の大切さを伝えていたらどうか。

食育(健康な方の食について・重症化予防の食について)に、取り組むための

具体的なプロジェクトの方向性を検討していく。

次回へ向けて

上記を具体的にしていくために、各部署での情報やデーターや意見を持ち寄り、話し合う予定。

*新津地域医療福祉連携運営委員会にて、地域連携手帳の活用、データー分析等